

abandon の文法

田 中 実

Synopsis: The aim of this paper is to investigate the usage of the verb *abandon* (“yameru” in Japanese), referring to the synonyms of *abandon*. Dictionaries have not given the usage *abandon* + V-ing but it is actually seen in corpora. In that case, it is used on some conditions: in contexts, there are (i) semantically opposite verbs to *abandon*, (ii) semantically similar verbs to *abandon*, and (iii) no verbs which are semantically opposite or similar to *abandon*. On one of such conditions, the usage *abandon* + V-ing is induced by the syntactic traction.

Key words: *abandon*, シノニム, 意味的対立, 意味的類似, 統語的牽引

1. はじめに

abandon (「やめる」) という動詞はややフォーマルであるが、もっぱら他動詞として用いられる。例えば、

(1) a. They were forced to abandon the game because of rain.

b. We had to abandon any further attempt at negotiation.

(以上, Lea 2008: 743)

そして、通例、目的語には (1 a, b) に見られるように名詞句をとる。この点は各種の英和辞典にも記載されているところであって、一見、問題はないように思われる。

しかしながら、次のような例を見られたい。

(2) The party says its long-term goal is shift Chinese agriculture from the labor-intensive, household-based farming of small pots to mechanized production on a large scale . . . Many farmers abandoned growing such crops, a portion of which they had to sell at low state prices, soon after China began breaking up com-

munes in 1979. (COCA)

(2) では, **abandon** はその目的語として **V-ing** をとっている。**abandon** が目的語にこうした **V-ing** をとることへの言及は論者は寡聞にして知らない。

そこで, 本論では **abandon** とそのシノニム (**synonym**) に触れながら, **abandon** の文法・語法の実態を探ってみたい。

2. 「やめる」の意味のシノニム

Lea (2008: 742-743) および田中 (2011: 738-739) には **abandon** のシノニムとして, (3) のような語(句) が挙げられている。

(3) **stop, give up, cease, drop, quit, discontinue, leave off, knock off, pack in**

このうち, 自動詞としても用いられるのが **stop, cease, quit, knock off** であり, 他は通例, 他動詞として用いられる。さらに, **give up, quit, leave off, pack in** はすべてインフォーマルな語(句) であるが, **give up, leave off, knock off, pack in** のいわゆる句動詞(**phrasal verb**) のニュアンスの違いについて, Lea (2008) および田中 (2011) ほど詳しく説明されている文献はいまのところない。その違いとは, (4 a~d) のようなものである。

(4) a. **knock off** は「一日の終りに, あるいは短時間の間, 作業を『やめる』」

b. **leave off** は「あとでもう一度始めるつもりで, 一時的に『やめる』」

c. **give up (work)** は「仕事を『やめて』, 別の仕事もしない。
give up (one's job) は「仕事を『やめて』, 別の仕事に就いたり, 自分で仕事を始めたり, 世界中を旅したりするなど, 他のことをする」

d. ***pack in (work)** とは言えないが, **pack in (one's job)** とは言え, その場合, **pack in (one's job)** は **give up (one's job)** に準じる。

ちなみに、英和辞典の G^5 , W^3 ではそれぞれ、(5 a, b) のような記述が見られるだけである。

(5) a. **give up** は「〈悪習など〉をやめる」, **knock off** は「((略式))... を [するのを] やめる」, **leave off** は「((英略式)) (... するのを) やめる」, **pack in** は「((英略式)) 〈仕事・勉強など〉をやめる」(G^5)

b. **give up** は「〈習慣など〉をやめる」(ただし, **give up V-ing** は「すでに始めていること, あるいは習慣的に行っていることをやめる」, **knock off** は「〈仕事など〉をやめる」, **leave off** は「〈習慣など〉をやめる」, **pack in** は「((主に英)) (いやになって) 〈仕事など〉をやめる」(W^3)

こうした句動詞とともに、(3) の **stop**, **cease**, **drop**, **quit**, **discontinue** といった動詞についての G^5 , W^3 の記述についてはどうか。(6 a, b) を見られたい (abandon についても挙げておく)。

(6) a. **abandon** は「〈活動・計画・援助など〉を (途中で) やめる」, **cease** は「〈活動など〉[... することを] やめる」, **discontinue** は「((正式)) 〈それまでやってきたことを〉やめる」, **drop** は「〈計画・行動などを〉をやめる」, **quit** は「〈悪い [不快な] 行為〉をやめる」, **stop** は「〈進行中の行為〉を [... するのを] やめる」(ただし, **She stopped smoking.** は「一時的・習慣的のいずれの場合もある」が, **She gave up smoking.** は「習慣的意味のみ」)(G^5)

b. **abandon** は「〈試合・作業・計画など〉を (途中で) あきらめる」, **cease** は「〈活動など〉をやめる」, **discontinue** は「〈定期的な活動〉をやめる」, **drop** は「〈考え・計画・習慣など〉をやめる」, **quit** は「〈仕事・学校など〉をやめる, ((主に米口)) 「〈不快な行為〉をやめる」, **stop** は「〈今している活動〉をやめる」(W^3)

ちなみに、 K では「やめる」の意味の **cease**, **quit**, **discontinue** について

(7) のような記述が見られる。

(7) **cease** は「活動・状態を徐々に中止する」, **quit** は「活動を永久的にやめる」, **discontinue** は「規則的に続けてきたことをしばらくやめる」

以上の (4 a~d) (5 a, b) (6 a, b) (7) を踏まえて, (3) の「やめる」の意味のシノニムのニュアンスの違いを (**abandon** については *Youth* の記述 (「〈努力・計画などを〉(困難・不利益ゆえに中止する)」) を考慮に入れて) まとめてみると (8 a, b) のようになる。

(8) a. **abandon** は「活動・援助・作業・計画・努力などを困難・不利益を理由に(途中で)やめる」, **stop** は「進行中の行為をやめる」, **cease** は「活動・状態を徐々にやめる」, **drop** は「計画・考え・行動などをやめる」, **discontinue** は「定期的な活動をしばらくやめる」, **quit** は「仕事・学校・不快な行為などを永久にやめる」

b. **knock off** は「一日の終りに, あるいは短時間の間, 作業をやめる」, **leave off** は「あとでもう一度始めるつもりで一時的にやめる」, **pack in** は「嫌になって仕事・勉強などをやめる」, **give up** は「すでに始めていること, あるいは慣習的に行っていることをやめる」 cf. **give up work** は「別の仕事をするわけでもなく仕事をやめる」が, **give up one's job** は「別の仕事に就いたり, 自分で仕事を始めたりなどするために仕事をやめる」

ちなみに, (8 b cf.) に関して, 目的語として **work** と **job** を上に挙げたシノニムがとる場合, Lea (2008: 742) および田中 (2011: 739) には (9 a, b) のような制約が設けられている。

(9) a. **stop / give up / cease / abandon / quit / leave off / knock off**
work

b. **give up / abandon / quit / pack in** one's job

(9 a, b) のうち **abandon** を例にとるなら, 「仕事 (**work**, **job**) をやめる」という場合, **abandon work** か, **abandon one's job** のように **job** の場合,

文脈依存の所有人称代名詞が義務的である。

3. 目的語としての V-ing

(9 a, b) に準じる情報として, Lea (2008: 742) および田中 (2011: 739) には「やめる」の意味のシノニムが目的語として V-ing (smoking は「喫煙」の意味の名詞(句)として扱われ, give up / quit smoking の例が掲げられている) をとる場合, (10) のようなものになるとされている。

(10) stop / give up / cease / quit / leave off V-ing

(10) のうち stop, cease が目的語として V-ing 以外に to VP をとることはいうまでもないが, その場合の違いについては本論では触れない。ちなみに, (10) に挙げられているシノニム以外にも, W^3 によれば discontinue, knock off もその目的語に V-ing をとることは可能である。

では, abandon についてはどうか。Lea (2008) および田中 (2011) や G^5 , W^3 をはじめとする各種英和辞典でも abandon が目的語として V-ing をとることの可能性についての記述は見られない。しかしながら, 冒頭で挙げた (2) のように abandon + V-ing の形式は実際に見られる。便宜上, (2) を簡略化して (11) として再掲してみよう。

(11) Many farmers abandoned growing such crops, a portion of which they had to sell at low state prices, soon after China began breaking up communes in 1979.

(11) は「多くの農民は 1979 年の中国人民公社の解体直後, 国家が定めた低価格での一部販売を強いられるこのような作物の栽培をやめた」といった意味で目的語として V-ing が機能していることが見てとれる。

abandon という動詞がこのように目的語としての V-ing をとりうるのはなぜか, また, abandon が目的語として V-ing をとりうる条件となるものがあるのかどうか, といった点について次に検討してみよう。

4. abandon + V-ing の実態

まず, **abandon** が「やめる」の意味を表す場合, そのニュアンスについて確認しておこう ((8 a) の **abandon** に関する記述を (12) として再掲)。

- (12) **abandon** は「作業・計画・援助・努力などを困難・不利益を理由に (途中で) やめる」

次に, COCA からのいくつかの例を見てみる。

- (13) a. I continued to practice Morse code for a while and was getting somewhat better, but then I abandoned practicing because it was boring to send messages into a void.
- b. He thought it would reflect badly on the family, if word ever got out. Eventually he abandoned trying to reason with me, and simply made it clear that if I wanted to continue being his son, I had better learn to control my delusions.
- c. At the request of the pharmaceutical industry, for example, Washington has filed a complaint with the WTO against Brazil for threatening to make drugs itself unless the patent holders start making them locally and cheaply within three years of filing a patent. The United States has also formally threatened trade sanctions against the Dominican Republic, Thailand, and more than 15 other developing countries unless they abandon manufacturing, exporting, or purchasing generic copies of drugs that American firms have patented.

(以上, COCA)

(13 a) は「しばらく続けてモールス信号を送った。体の調子は前よりいくぶん良くなってきていたが, メッセージを架空の相手に送ることに嫌気がさしてやめた」, (13 b) の当該箇所は「とうとう彼は私に理を説こうとする試

みをやめて、わたしの息子であり続けたなら、妄想を抑えることを学んだほうがよいと明かしていただけだった」, (13 c) の当該箇所は「合衆国はドミニカ共和国やタイ, そのほか 15 以上の発展途上国がアメリカの会社に特許権のあるジェネリック医薬品のコピーの製造, 輸出, 購入をやめなければ公式に貿易制裁するとの脅しをかけてもいる」といった意味をそれぞれ表す。

さて, ここで (13 a~c) における下線部と波線部に着目してみよう。

(13 a) では **continue – abandon**, (13 b) では **abandon – continue**, (13 c) では **start – abandon** といったつながりが見てとれる。つまり, (13 a, b) での **abandon + V-ing** の用法は普通に **V-ing** を目的語にとる **continue + V-ing** の用法に牽引されて (換言すれば, **continue + V-ing** にならって), (13 c) での **abandon + V-ing** の用法は普通に **V-ing** を目的語にとる **start + V-ing** に牽引されて (換言すれば, **start + V-ing** にならって) それぞれ用いられたものと思われる。

この点は, (11) [(14) として再掲] でも同様で, (14) では **abandon – begin** のつながりが見てとれる。

(14) Many farmers abandon growing such crops, a portion of which they had to sell at low state prices, soon after China began breaking up communes in 1979.

(14) での **abandon + V-ing** の用法は普通に **V-ing** を目的語にとる **begin + V-ing** に牽引されて (換言すれば, **begin + V-ing** にならって) 用いられたものと思われる。

以上, (13 a~c) (14) で **abandon + V-ing** が用いられる理由をまとめると, 次のように言える。「やめる」の意味の **abandon** と意味的に対立する, 「続ける」の意味の **continue** や「始める」の意味の **begin, start** が普通に **continue / begin / start + V-ing** の形で用いられるので, それに統語的に牽引されて **abandon + V-ing** も用いられる。

こうした意味的な対立と統語的な牽引により, 通例は用いられないとされる **abandon + V-ing** が用いられる例もあれば, 文脈中に見られる意味的な類似により, 統語的な牽引が生じて **abandon + V-ing** が用いられる例も見

られる。(15)を見られたい。

- (15) Despite of the lack of clear regulations, industry gaiants such as Revlon Inc. and Avon Products Inc. have stopped testing on animals. Estee Lauder – a longtime holdout in favor of animal tests – recently joined the ranks, but on 1 product, ‘origins’, right? Its other products still are animal tested, right? Revlon and Avon abandoned testing following highly visible demonstrations and consumer boycotts organized by PETA, although the companies maintain that the pressure by PETA had nothing to do with the decisions. (COCA)

(15)の当該個所は「レブロンとエイボンは PETA が計画したと非常にはっきりわかるデモや消費者のボイコットにあって、治験をやめた」といった意味を表す。ここでは **abandon + V-ing** に先行する文脈に **abandon** とシノニム関係にある **stop** が波線部で示したように **stop + V-ing** の形で出現しており、意味的類似(「やめる」)が目的語としての **V-ing** の統語的牽引を起こす結果となっている。

さらに、**abandon + V-ing** が生じる第3のケースとして、先行[後行]する文脈に意味的対立や意味的類似の動詞がない(したがって、統語的牽引を起させない)にもかかわらず、**abandon + V-ing** が普通に用いられる例が見られる。(16 a, b)を見られたい。

- (16) a. Gardeners, however, from Indiana to Washington State were at liberty to bemoan the dry pods of overlarge pole beans, the stunted corn. And, too, anyone whose household relied upon a private well were free to complain about having to abandon watering the arduously cultivated but frivolous flower beds in order to save the tomato plants and melons.
- b. “Is there something you wanted to tell me?” He raised his head and their eyes briefly met. Reading her younger son had never been a problem for Clare. “How about if we talk in the

kitchen?” The hopeful look on his face convinced her to abandon paying the bills. She’d get back to all that later. “Sure.”

(以上, COCA)

(16 a) は「しかしながら、インディアナ州からワシントン州にかけての庭師たちが大きくなりすぎたツル性のインゲンマメの乾いたサヤや生育不全のとうもろこしについて嘆くのも許されることであったし、また、家族が自家用井戸に頼る人がトマトの植付けやメロン保護のための根気強い栽培にもかかわらず、とるに足らない花壇への水やりをやめなければならないと不平を言うのも勝手であった」、(16 b) は『『私に話したかったことがあるの?』彼が顔をあげると二人の目はちらっとあった。これまでクレアにとって末息子の気持をおしはかることなど、おちゃのこさいさいだった。『台所で話さない?』と彼女はそれとなく言った。『喉、乾いてない?』しめた、と思う彼の表情で彼女は勘定払いをやめにしよう、『それらのことはあとにしよう』と彼女は思った。『もちろん乾いているさ』と彼は言った』といった意味を表すが、ここでは **abandon + V-ing** が用いられる手立てとなるものが特に見当たるわけではない。

以上、**abandon** が目的語としての **V-ing** をとる 3 つのケースについて見てきたが、それらをまとめると (17 a, b) のようになる。

(17) a. **abandon** が出現する文脈中に、意味的対立・類似の動詞が存在し、それに統語的に牽引されて **abandon + V-ing** が用いられる場合。

b. **abandon** が出現する文脈中に、意味的対立・類似の動詞が存在しなくても **abandon + V-ing** が用いられる場合。

ちなみに、(17 a) と類似のことは、形容詞についてであるが Bolinger (1967: 1-34) でも指摘されている。すなわち、**be + A(djective)** が先行文脈で出現していれば（換言すれば、談話において確立していれば）、本来、**A + N(oun)** では用いられない **A** が **A + N** で用いられる場合があるとの趣旨の言及が見られる。

それはさておき、(17 a, b) のいずれの場合にも、**abandon + V-ing** が用

いられることに違いはないのであるが、では、なぜ、それを用いることが可能なのであろうか。

5. abandon + V-ing の存在理由

(8 a, b) に見られる「やめる」の意味の動詞(句)はそれぞれ、ニュアンスに差はあるものの、なにかを「やめる」ことに相違はない。その場合、「やめる」という以上はそれまで継続してやってきていることがあるという前提にたっていることは言うまでもない。そこでは、現在・過去指向的(present-/past-oriented)な V-ing をとることは自然である(事実、上述のように、(10)に挙げた「やめる」の意味の動詞(句)(stop, give up, cease, quit, leave off)や W³で触れられている動詞(句)(discontinue, knock off)もそれぞれ、その目的語として V-ing をとる)。

もし、そうなら、それらと並んで、「やめる」の意味のシノニムである abandon がその目的語として V-ing をとってもいっように不自然ではない。が、各種辞典において、abandon + V-ing の用法が載せられていないのは、いまだその用法が確立していないだけのことであり、将来的には普通に用いられる用法として定着する可能性を秘めていると言えよう。

しかしながら、ここで1つの問題点が生じてくる。例えば、「やめる」の意味の stop と abandon を比べてみよう。(18 a, b) を見られたい。

(18) a. Many farmers stopped / abandoned growing such crops.

b. They stopped / ??abandoned reading the book.

道野(2011: 15-16)が実際に複数のネイティブ・スピーカーにチェックを試みたところ、(18 a)のように「作物を育てる」といった、通例、比較的長期にわたる行為を「やめる」場合、stop/abandon + V-ing は可能であるが、(18 b)のように「本を読む」といった、通例、比較的限られた時間内で行う行為を「やめる」場合、stop + Ving は自然であるが、abandon + V-ing は不自然であるとの反応が得られた。

このことから、(8 a) (12)に挙げた abandon のニュアンスは、手を加

えて (19) のようなものになろう。

- (19) **abandon** は「比較的長期にわたる活動・援助・作業・計画・努力などを困難・不利益を理由に（途中で）やめる」

6. おわりに

(19) のようなニュアンスで用いられる **abandon** (「やめる」) という動詞が、通例、容認されないとされる **abandon + V-ing** の形で実際に用いられているケースについて見てきたが、そのケースとして次の3つのものが挙げられる。

- (20) a. **abandon** (「やめる」) と意味的に対立する動詞 (例えば, **begin/start** (「はじめる」), **continue** (「続ける」)) がその目的語として文脈中で **V-ing** をとる場合, それに統語的に牽引されて **abandon + V-ing** が用いられる。
- b. **abandon** (「やめる」) と意味的に類似する動詞 (例えば, **stop** (「やめる」)) がその目的語として文脈中で **V-ing** をとる場合, それに統語的に牽引されて **abandon + V-ing** が用いられる。
- c. **abandon** (「やめる」) とは意味的に対立・類似する動詞が文脈中に存在しない場合でも, 「やめる」ことの前提としてそれまで (比較的長期にわたる) 継続中の行為の存在が認められる場合に **abandon + V-ing** が用いられる。

参考文献

- Bolinger, D. L. 1967. Adjectives in English: attribution and predication. *Lingua* 18. 1-34.
- Lea, D. 2008. *Oxford Learner's Thesaurus: A dictionary of synonyms* Oxford University Press.
- 道野翔子 2011. A Study of V-ing and to VP after Cessative Verbs. (BA Thesis)
- 田中 実 (監修) 2011. 『小学館オックスフォード英語類語辞典』小学館.

『ジーニアス英和辞典 第5版』(G^5)

『ウィズダム英和辞典 第3版』(W^3)

『ユースプログレッシブ英和辞典』(Y)

COCA